

「サミット粉碎」を主張する過激派

過激派の動向

一 重要施設を対象とした「テロ、ゲリラ」
過激派は、サミットを、「帝国主義世界体制の再編・強化を図るためのもの」である



米軍座間基地を標的とした飛翔弾発射事件
(平成19年2月、神奈川)

として、我が国における過去四回のサミットの開催時に、多数の「テロ、ゲリラ」事件を発生してきました。

この中には、昭和六一年五月、中核派がサミット歓迎式典を開催中の迎賓館に向けて爆発物を発射した極めて凶悪な事件もあります。平成一二年の九州・沖縄サミット開催時には、「沖縄サミット爆破」などと主張していた革労協反主流派が、「サミットは基地機能を強化するためのものであり、在日米軍司令部が所在する横田基地を攻撃することがサミット粉碎につながる」と主張して米軍横田基地に向けた飛翔弾発射事件を引き起こしました。この革労協反主流派は、一九年二月、米軍座間基地に向けた飛翔弾発射事件を引き起こしました。

過激派は、今回のサミットに向けて「サミット粉碎」などと主張し、反対闘争に取り組む姿勢を示していることから、サミット関連施設や米軍関連施設等に対する「テロ、ゲリラ」事件の発生が懸念されます。

二 海外団体との連携を強める過激派

過激派は、組織の拡大を図るため、海外の団体との連携を進めています。



「沖縄サミット粉碎」を主張してデモ行進する過激派
(平成12年7月、沖縄)

一九年のハイリゲンダム・サミットに対しても、一部の活動家が海外の反グローバリズムを掲げる団体の呼び掛けに応じて抗議行動に参加し、連携を強めていることから、今回のサミットでも、これらの団体等と共に、過激な抗議行動に取り組むことも予想されます。



海外の労働団体が参加したデモ(平成19年11月、東京)

サミットに対する各派の主張

共産主義者同盟 (統一委員会)	「洞爺湖サミット-帝国主義首脳会議を反帝国主義派の国際的結集で迎え撃つ、反帝反戦反グローバリゼーション闘争の大爆発へと結実させよう」
統一共産同盟	「帝国主義・超大国間の支配と利害調整を第一にした陰謀会議」「サミットは全世界の闘う労働者人民の増悪的として、粉碎の第一級の対象」
革労協主流派	「洞爺湖サミットを戒厳令下の朝鮮反革命戦争宣言の場として開催しようとしている」「反革命戦争粉碎-サミット粉碎にたちあがろう」
革マル派	「労働者階級の不満を圧殺するためにサミット反対闘争を強権的におしつぶす策動を開始している」「サミットに向けた「テロ関連の情報収集」を号令し弾圧にのりだした」

過激派對策

過激派の「テロ、ゲリラ」事件は、非公然活動家によって引き起こされています。通常これらの非公然活動家は、一般市民を装い、過激派組織が偽名等を使って借りたアパートやマンションで普通の生活をしているように見せかけて、爆発物の製造等、様々な違法行為を行っています。

警察は、「テロ、ゲリラ」事件の未然防止のために、非公然活動家の発見、非公然アジトの摘発に向け、アパートやマンションに対するローラー、ポスター等を活用した広報活動等に取り組んでいます。

